

イザヤ書 46 章 1-7 節「あなたが白髪になっても」

小池 宏明 牧師

預言者イザヤは、聖書の中でとても有名な人物である。その理由の一つが、未来のことを予告している言葉がその如く実現したことにある。イザヤは、もちろん歴史を動かすような能力を持っていない。イザヤは主なる神様からの言葉を預かって、それを宣べ伝えるという使命を果たした。

*バビロン滅亡の預言

イザヤ書 46 章と続く 47 章では、バビロン帝国の滅亡が預言されている。この出来事は、歴史的には預言者イザヤが天に召されてから起きたことである。イザヤに御ことばを与えた神は、私たち人類とその歴史をご支配しておられる主なる神様なのだ。イザヤの預言は、当時の王（南王国の）にも伝わり、イザヤは迫害を受けることになる。イザヤの最期はこのぎりぎりでひかれて殉教したと伝えられている。そんな人生を歩むイザヤが、まさに命がけで伝えた預言の言葉が、このイザヤ書として今日まで残されて来た。

*救いの確かさ

今日の箇所、強調されている 3、4 節は以下のとおりである。「3 節：ヤコブの家よ、わたしに聞け。イスラエルの家のすべての残りの者よ。胎内にいたときから担がれ、生まれる前から運ばれた者よ。 4 節：あなたがたが年をとっても、わたしは同じようにする。あなたがたが白髪になっても、わたしは背負う。わたしはそうしてきたのだ。わたしは運ぶ。背負って救い出す。」イスラエル民族の歴史において、3 節は、モーセを中心として主の民イスラエルが奴隷だったエジプトから解放されたことを指しているという解釈がある。エジプトから出発した民が、紅海を割って脱出する奇蹟的な救いの御業は、近隣の国民を恐れさせて、主の民イスラエルの存在が、世界に知られるきっかけになった。主の民の世界デビューのようなものだ。一方、4 節は、国が滅んで弱々しく連れて去られてバビロン帝国で偶像に囲まれて生活せざるを得ない主の民を高齢者に例えている。しかし、主なる神様は、御自分の民を背負ってでも運び出す、どんなに歳をとって、白髪になってよぼよぼしていても、必ず救い出す、と力強く約束して下さった。民は約束通りバビロンから帰還した。この神様の姿は、私たちの主イエス・キリストのお姿でもある。

主なる神様は、御自分の許に立ち返るご自分の民である私たちを、最初から最後まで、永遠の御住まいに至るまで、連れて行って下さる。背負ってでも連れて行って下さる。たとえ高齢者と呼ばれる年代になっても、不安になったり、恐れたりする必要はない。主の祝福は、永遠に至るまで決して変わらないのだ。